平成３０年度　佐賀市立大和中学校　学校評価計画

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
「思いやりの心とチャレンジ精神に満ちあふれた生徒の育成」 《相手の心になって考える》 《困難な問題や未経験に挑戦する》 《意欲を持ち積極的にやる》 「大和協力」の精神のもと、心身ともに健康で実践力のある人間性豊かな生徒の育成を目指す。	(1) 心の教育の推進 (2) 基礎学力の育成 (3) 健康・安全教育の推進 (4) 特別支援教育の充実 (5) 小中連携の推進 (6) 開かれた学校づくりの推進

達成度
Ａ：ほぼ達成できた
Ｂ：概ね達成できた
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

3　目標・評価

(1) 心の教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	教育相談体制の充実	・教育相談週間を年2回（6月・11月）実施する。 ・不登校生徒を全校生徒の3%以下にする。 ・「先生たちは相談事や悩みに適切に…」という肯定的評価を生徒・保護者ともに80%以上とする。 ・別室登校生徒への支援を行う。 ・学習支援員、スクールカウンセラー等との連携を図る	・不登校（傾向）生徒に対して、2～3名程度のチームで対応するグループローラー作戦を展開する。 ・定期的に相談アンケートを行い、生徒の実態を把握する。 ・年2回の教育相談週間を設定し、生徒の相談や悩みに親身になって対応する。 ・別室登校生徒の心のケアに努める。 ・教職員間の情報共有と連携を図り、組織的な取組を行う。	B	「先生たちは相談事や悩みに適切に応じてくれる」という肯定的評価については、85.0%と目標値を上回ることができ、昨年より3.1ポイント上昇した。 教育相談部会を中心に、変化の見られる生徒・気になる生徒の情報交換を行い、対応策を模索することができた。 不登校生徒については、1年生が徐々に増加し、目標値である３%を超えた。 別室登校への支援については、学習支援員や担任の関わりが功を奏し、改善が見られた生徒もいた。	教職員にもＳＣの活用を呼びかける他、校内でも研修の機会を設け、教育相談週間や学活等で活用できるカウンセリングマインドについて研鑽を図る。 今後もＳＣ、ＳＳＷ、学習支援員、サポート相談員との連携を図り、組織的に生徒や家庭に働きかけを継続していく。
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめ問題への対応の充実	・毎月生徒アンケートを実施する。 ・いじめを早期に発見し迅速に対応する。 ・「学校は、いじめのない楽しい学校をつくろうと…」という肯定的評価を生徒・保護者ともに80%以上とする。 ・学習支援員、SC等との連携を図る。	・毎月アンケートを行い、生徒の実態を把握する。 ・担任や学年担当職員をはじめ、多くの職員で生徒を見守り、生徒の変化に早めに対応する。 ・学習支援員、SC等とともに生徒理解の充実に努める。 ・命の尊さと生きることの意味を教え、人を思いやる気持ちと感謝の心を育てる。 ・日頃よりいじめを許さない学級づくりを推進する。	A	毎月、各クラスで生活アンケートをとることで、いじめの早期発見・早期解決を図ることができた。 いじめに関する職員研修を行ったことで、職員のいじめに対する意識の向上や共通理解を図ることができ、いじめ事案について迅速に対応することができた。 アンケート結果では、、肯定的な評価が、生徒90.9%、保護者81.6%と目標値を上回ることができた。職員の丁寧な対応ができていることを、示すことができた。 学習支援員やスクールカウンセラーと連携を図りながら、登校しぶりの生徒や別室登校の生徒に対する対応を更に充実させることができた。	全校生徒一人一人が、もっといじめについて考え、自主的に行動できるような環境づくりが必要である。特に、生徒会活動などで、いじめについて、議論したり、提案したりするなど、生徒がいじめに関して考える場を設定することが必要である。
教育活動	○生徒指導	生徒指導体制の充実	・問題行動等の発生件数を前年度程度にする。問題行動に対し、その日のうちに対応する。 ・遅刻者（特に理由無し）数を1日当たり5人以下とする。	・定期的に生徒指導に関する集会・会議を開き、情報を共有化して、予防的・積極的な生徒指導の充実を図る。 ・毎月一回、生活アンケートを行い、生徒の生活状況を把握する。 ・毎朝、生徒玄関での挨拶運動を行うとともに、生徒への声かけを継続する。 ・生徒会との連携を図り、生徒の自主性・自律的行動の支援をする。	B	職員が一丸となって、問題行動を早期発見、指導、解決することで、問題行動を広めたり、長引かせたりすることなく、落ち着いた学校生活を送らせることができた。 遅刻者については、例年と変わらない程度で、1日に5人程度であった。しかし、登校しぶりの生徒や、怠学傾向の生徒の遅刻は、少し増加傾向にあった。	全校生徒の挨拶や返事が、自主的に元気よくできていない。生徒会活動が目立たず、生徒がつくる学校といった雰囲気がなく、自主性に欠ける生徒が多い。このことから、来年度は、生徒会活動を活発にして、生徒自らがよりよい学校づくりに貢献していくような雰囲気をつくれば、元気なあいさつや返事、大きな声で校歌を歌うことなど、改善していくと思われる。 学校生活全体にけじめがなく、特に、無言清掃や立腰などの取り組みが徹底できなくなってきている。もっと学校全体でしっかりと取り組むためにも、全職員の共通理解と、全校生徒の自発的行動が必要である。
教育活動	○読書活動	読書活動の充実	・図書館の利用者数を増加させる。 ・朝読書の時間を設定し、継続した読書活動を行う。	・図書委員会を中心とした読書推進活動を行う。 ・教師も朝読書に取り組み、生徒全員が読書をするような雰囲気を醸成する。	A	昨年度以上に図書の貸し出し数が増加し、昼休みは読書をする生徒や本を借りに来る生徒でにぎわっている。図書委員が毎日当番制で図書館運営に携わっており、活発に活動した。	朝読書や昼休みの読書などを通して読書に親しむ生徒は増加したが、選ぶ本の内容に個人差があり、偏りが見られるので、幅広い選書ができる能力を付けていくことが必要である。啓蒙活動に力を入れていく。

(2) 基礎学力の育成

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力向上	確かな学力の定着	・県の学習状況調査等において、県平均・地区平均程度を目指す。 ・全生徒が授業に対して積極的に臨むための「学びの場」を設定した体制づくりを行う。 ・70%以上の生徒に「学力が向上している」ことを実感させる。	・校内研修において各教科における基礎・基本についての定義を確認する。 ・「立腰教育」を取り入れた授業づくりに取り組む。 ・めあての提示やまとめの可視化等の工夫をする。 ・自主自発的な学習活動を推進し、朝自習の徹底と家庭学習の習慣化を図る。 ・教セの講座授業を活用し、指導力の向上を図る。	B	佐賀県小・中学校学習状況調査において、4月調査と12月調査を比較してみると、1年生の国語と数学は、県平均をいた回っているが、その差が縮まっている。引き続き、現在の取り組みを継続していく。 学校アンケートの結果より、学力が向上していると感じている生徒は61.1%、保護者は52.4%であった。意欲的に授業に取り組んでいる生徒は87.7%と昨年より0.9ポイント上昇した。	どの学年にも特別支援教育の視点を取り入れた細かな支援を要する生徒がいるため、引き続き現在の取り組みを継続していく。 生徒が授業毎に達成感を味わうような授業展開をするために教育センターと連携した授業研究会や一人一授業研に取り組み、指導力の向上を図る。 基礎・基本の定着に重点をおき、課題の与え方を工夫して、授業と連動した効果的な家庭学習を用意し、家庭学習で授業内容の定着を図る。
教育活動	○中1理・中2数、英の学習環境の改善充実	TT、少人数指導の充実	・「授業が分かる」という生徒の肯定的評価を80%以上とする。	・一人一人の学習状況に対応し、きめ細かな指導を行うためTTを基本として実施する。 ・指導者同士で打ち合わせを十分に行い、分かる授業を目指し、指導法の工夫改善を行う。	A	「授業が分かりやすい」と肯定的評価をした生徒は86.7%であり、昨年より5.3ポイント上昇した。また、「授業にやる気がある」と答えた生徒は87.7%であり、昨年より0.9ポイント上昇した。	教科内で指導法についての意見交換を行い、分かる授業を目指し、指導法の工夫改善を継続して行っていく。
教育活動	○体験活動	ふるさと学習を通した豊かな人間性の育成	・佐賀県や大和町の自然や歴史、産業について調べ、80%以上の生徒が理解を深める。	・総合的な学習の時間において、郷土の自然や歴史、産業について学習を進め、そのよさを発信するようなレポートを作成させる。 ・職場体験やクリーン作戦など地域密着型の活動を実施し、呼びかけることで積極的な参加を促す。	A	アンケート結果より、生徒の理解状況は78.4%となり、昨年度より9.1ポイント上昇した。 1年生は大和町内、2年生は職場体験などで郷土の自然や歴史、産業について総合的に学習を進めた。 クリーン作戦では、生徒会美化委員会を中心に意欲的に取り組み、地域に貢献する姿勢を身に付けた。	クリーン作戦や地区の行事など地域に貢献できる活動への参加を促し、地域への所属感を高めるようにする。
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT 利活用教育の実施	機器操作の向上	・機器操作に慣れるため積極的に研修会や教セ講座等に参加する。	・各教室の電子黒板を毎日最低1回は授業で利用する。 ・タブレットPCの操作についての校内研修会を実施する。	A	電子黒板については日頃から利用することができるようになってきている。課題としては、画面に映し出すスライドなどの、文字サイズや配色等の視認性向上である。 タブレットPCの操作研修会を夏に2回実施したり、道徳教育についての研修会で利活用したりすることができた。	電子黒板の利用については、それを利用する目的に応じて、視認性向上につながるよう、情報推進リーダー便り等を通じて、常時伝えていきたい。 タブレットPCについては、今後もICT以外の研修会においても、積極的に活用していき、授業づくりでの利活用につなげていきたいと考えている。
学校運営	○教職員の資質向上	教職員の専門性を高める研究・研究の推進	・研究主題に基づく研究授業の実践に主体的に取り組む。 ・教セ研修講座や各種研究会主催の講演会等に積極的に参加する。	・教科指導力の向上のために教科内での情報交換を密にする。 ・全職員が年1回の研究授業を行い、授業実践力の向上に努める。 ・教セや他校の研究発表会に一人最低一回以上参加する。	A	授業のめあてと流れの提示については全職員で共通した取り組みができた。 各教科1回教育センターと連携した授業研究会を実施することができた。また、一人一授業研を行い授業実践力の向上に努めた。	教科の枠を超えた授業研究会を引き続き実施し、他教科の実践の中から参考になるものを取り入れたり、生徒理解を深めたりして、更に指導力向上に努める。

(3) 健康・安全教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●健康・体つくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 部活動の充実	・生徒の朝食の摂食率を90%以上とする。 ・薬物乱用や性非行の問題行動発生を「ゼロ」とする。 ・生徒の部活動出席率を90%以上とする。	・朝食の重要性について、計画的に指導するとともに、保護者にも協力依頼を継続する。 ・健康教育の一環として、薬物乱用防止教室や性に関する教育の実践を全校生徒に対して計画的に行う。 ・部活動において、適切な指導を進め、生徒の自主性・自律性の育成、体力の向上を図る。	B	生徒の朝食摂食率は、94%となり、目標値を上回った。 薬物乱用や性非行の問題行動発生は「ゼロ」であった。 各部活動の活動出席率は、87%と目標を下回ったが、各部活動において活動計画を作成し、見通しをもった活動を実施することができた。	朝食の摂食状況が若干上がっているが、更に朝食の大切さについて改めて啓発していく必要がある。また、保護者にも喚起していきたい。 引き続き、各部活動の活動計画表の作成する。また、次年度は、「部活動に係る活動方針」に沿った活動時間等の見直しなど、活動実施にあたる各部の取り組み方を生徒の実態を踏まえ、工夫していく。
学校運営	○安全な学校づくり	危機管理体制の整備	・校内外における生活事故・交通事故発生件数の前年より減らす。	・危機管理マニュアルの更新を行い、危機に対応する組織力をつける。 ・校内安全点検を毎月行い、要改善箇所は短期間内に改善する。 ・校外における安全上問題箇所について、情報収集を行い、生徒への指導に役立てるとともに、登下校時に定期的に実施する。	A	1学期は警察官を招いての交通安全教室、2学期はスタントマンの実演による交通安全教室を実施した。年度初めに自転車の接触事故等が多く発生したが、2学期以降は減少した。 交通ルールを守っていると答えた割合は、生徒57.3%、保護者68.2%であり、どちらとも昨年より交通ルールを守っている割合が増加している。	職員は輪番で毎朝交通指導をしており、今後も地道に継続していく必要がある。それとともに地域や家庭と連携しながら子供を守る意識を高めていきたい。 昼休み等の校内巡回を継続し校内の事故防止に努める。 また、安全点検は毎月実施し、安全確保に努める。

(4) 特別支援教育の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○特別支援教育	特別支援教育体制の整備	・校内特別支援教育委員会を定期的に開催し、特別な支援を要する生徒の把握と支援方法を協議し、全職員が共通理解をして、支援にあたる。	・通常学級における特別な支援を必要とする生徒について、個別の教育支援計画と指導計画を作成し、随時、加筆と修正を行う。また、生徒の情報を全職員で共有し、より深い支援体制づくりを行う。 ・特別支援教育委員会を活用し、支援を要する生徒の情報交換や理解に力を入れて取り組む。 ・特別支援学校の巡回相談やその他専門機関と連携しながら、生徒の個性に合わせた支援をする。	B	通常学級に在籍する生徒の個別の教育支援計画については保護者の同意を得ることが困難だった。また、個別の指導計画作成については、担任への負担が大きかった。 チーム（学年）での対応が必要である。 特別支援教育委員会の活用ができず、支援を要する生徒への全職員での共通理解が不十分だった。 巡回相談やその他専門機関と連携しながら、特性に合わせた支援を行うことができたケースもあったが、対象者（知、自・情傾向）が多く、対応できないケースもあった。 通常学級における発達障害傾向の生徒への合理的配慮ができなかった。	保護者と生徒に対して中学校における特別支援学級の教育課程を理解してもらうため、事前の話し合いや相談が必要である。また、小学校との丁寧な情報交換、引き継ぎを行うようにする。 特別支援教育委員会を学期に1回開催する。 障害種別に合わせた支援、個別の支援計画の作成など特別支援教育に関する研修を行う。あわせて、通常学級における合理的配慮について、研修と個々の支援に対する共通理解を図る。
教育活動	○不登校生徒への支援体制	職員の支援体制を確立する	・生徒の実態に応じた教職員の支援体制を確立する	・毎週教育相談部会を開催し、支援内容の検討を行う。	B	教育相談部会では情報交換を密に行い様々な手立てを行うことができたが、生徒の特性や、家庭的要因、怠惰等、不登校に関わる要因が多岐に渡るため、不登校生徒を減らすことはできなかった。 専門機関との連携、情報の共有化を図り、どんな手立てが打てるかを長期的に検討し、継続的に対応していく必要がある。	1年生の不登校の生徒の増加の背景として、小学校からの要因が否めないので、低学年時に休みが続いていなかったかについての確認と、どういう手立てを取っていたかについての情報伝達を密に行い、解決策を共有する。1学期はなんとか登校できている生徒が多いので、長期休業や連休明けにスムーズに登校できるよう、休み途中での電話連絡や家庭訪問、部活動での声掛けなどを行い、未然に防ぐための手立てをとる。

(5) 小中連携の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○小中連携	学習・生徒指導に関する小中連携の充実	・ 小中連携協議会と児童生徒の交流活動を充実させる。	・ 小中連携協議会で、「学力向上」「不登校支援」「特別支援教育」「生徒指導」の4つの部会に別れ協議をする。 ・ 授業公開を積極的に行い、小中の学びの実態を把握する。 ・ 「一日体験入学」「ようこそ先輩」等の交流活動を推進する。	B	小中連携協議会では、4部会で協議を行うことができた。 小中相互の授業参加を実施したが、時数・人数を増やしたい。 交流活動についても事前協議を行い充実を図っていきたい。	小中連携協議会で、「学力向上」「不登校対策」「特別支援教育」「生徒指導」の4つの委員会を年間2回計画・開催する。 授業公開を積極的に行い、小中の学びの実態を把握する。 「一日体験入学」「ようこそ先輩」等の交流活動を推進する。

(6) 開かれた学校づくりの推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	校務等の効率化の促進	・ 各分掌間の連携及び情報共有を図り、効率的な業務への取組を推進する。 ・ 部活動をしない日を設定する。	・ 校務サーバー上で各分掌が情報共有を行いやすいようにする。 ・ 各教職員の勤務時間を把握するとともに、特定の教職員に業務が集中しないようにマネジメントしていく。	B	校務サーバー上で各分掌が情報共有できた。 第3日曜日、佐賀市一斉部活動をしない日を実施することができた。 不登校を含む生徒指導上の問題等で時間外に業務にあたることも多かった。	引き続き校務サーバーを活用し情報共有を行いながら、効率的に業務に取り組む。 部活動については、「部活動に係る活動方針」に基づき、実施していく。
学校運営	○開かれた学校づくり	学校情報の積極的な発信	・ 授業参観、学校行事の周知率を80%以上にする。	・ 学校からの各種たより、学校Webページ、携帯メールなどで情報発信をする。 ・ フリー参観デー、授業参観や各種学校行事等を通じて学校公開に努める。 ・ 地域の行事への生徒の参加を促すとともに、職員に対して、部活動生徒への配慮を求める。 ・ 各小学校区の公民館との連携強化を推進する。	A	学校だよりの発行は積極的であった。 学校HPの更新は学校行事、中体連や各種大会が開催された即日更新することができた。 フリー参観デーでは、多くの保護者の参観があった。 保護者アンケートでは、90.9%の方が気兼ねなく出入りできる、親しみやすい学校と答えている。	これからも引き続き、学校からの通信（たより）を定期的に発行し、学校HPの更新を積極的に行っていく。 フリー参観デーや地域の作品展、朝読書の時間での読み聞かせ等、地域の方々が学校に来やすい活動を継続する。
学校運営	○学校経営方針	学校教育目標や学校経営ビジョンの周知	・ 教職員、生徒、保護者に周知を図る。特に、保護者への周知率を80%以上にする。	・ 生徒、職員に対しては、全校集会や職員会議などで説明する。 ・ 校内に掲示物として貼り出す。 ・ 全校集会などの集会行事及び学校だより・学年学級だより、PTA総会、学校Webページなどあらゆる機会を通じて周知に努める。	B	「大和協力」については、生徒や保護者に向けて機会あるごとに示されており、周知できている。 学校アンケートでは、71.3%の生徒、79.8%の保護者が、学校教育目標を知っていると答え目標値を下回った。	集会や学校HP、学校だより等あらゆる機会を通して引き続き周知に努めるとともに、各校務分掌で学校の教育目標や学校経営ビジョンを意識した活動計画を立てる。

4　本年度のまとめ・次年度の取組

今年度も校内研究として「学力向上」に取り組んだ。立腰の徹底や「めあて」・授業の流れの提示、「主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」を各教科で実践した。その成果として教師の意識向上を図ることができた。学校アンケートにおいて「授業が分かりやすい」と答えた生徒は86.7%、「やる気をもって授業に取り組んでいる」と答えた生徒は87.7%と昨年より改善している。不登校生徒への対応については、校内の支援体制や校外の連携もスムーズにとることができている。教師の対応力の向上・充実に向けた研修等積極的に実施することができた。
次年度においては、これまでの共通実践の部分をしっかりと継続するとともに、人権・同和教育の視点を加え学力向上について着実に成果へつなげていく必要がある。また、配慮が必要な生徒が年々増加してきている中、発達障害への対応について研修を積むこと、不登校・いじめへの早期発見・早期対応を行うため情報の共有化とチームで対応するための校内支援体制の更なる充実を図っていく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目